全農 JA全農いばらき

営農 News

令和 6 年 5 月 15 日　第 3145 号

コムギ赤かび病の発生に注意しましょう！

茨城県病害虫防除所では、５月１３日付で病害虫速報を発表し、コムギ赤かび病の発生について注意を喚起しています。詳しくは
https://www.pref.ibaraki.jp/nourinsuisan/nosose/byobo/boujosidou/yosatsujoho/documents/sokuhour6-2_syususeiban.pdf　をご覧ください。

コムギ赤かび病の発病穂
（写真　病害虫防除所）

[現在の状況]

① 赤かび病の原因となる赤かび病菌の子のう胞子は、気温が高く、曇雨天の日に飛散する。本年は、4月日～26日にかけて県内の多くの地点で赤かび病菌の胞子飛散好適条件が連続して出現した。
また、4月30日～5月2日および5月7日～8日にも出現している（表１）。

② 5月9日発表の気象予報によると、向こう１か月の気温は平年より高く、降水量は平年より多いと予想されており、本病の発生を助長する条件である。

表１　赤かび病の子のう胞子飛散好適条件の出現状況

	アメダス地点	4/20	4/21	4/22	4/23	4/24	4/25	4/26	4/27	4/28	4/29	4/30	5/1	5/2	5/3	5/4	5/5	5/6	5/7	5/8	5/9
県北	日立				●	●	●	●				●	●	●					●		
	常陸大宮				●	●	●	●				●	●	●					●		
県央	水戸			●	●	●	●	●				●	●	●					●	●	
	笠間			●	●	●	●	●				●	●						●		
鹿行	鉾田			●	●	●	●	●					●						●	●	
県南	土浦			●	●	●	●	●					●	●					●	●	
	龍ヶ崎		●	●	●	●	●	●				●	●	●					●	●	
	つくば			●	●	●	●	●				●	●						●		
県西	下館		●	●	●	●	●	●				●	●	●					●	●	
	下妻			●	●	●	●	●				●	●	●					●	●	
	古河			●	●	●	●	●				●	●	●	●				●	●	

●：子のう胞子の飛散好適日（日最低気温10℃以上、日最高気温15℃以上で、降雨日またはその翌日）

[防除対策]

① コムギは、開花から10日間程度の間が最も感染しやすい時期であり、1回目の防除適期は開花始期～開花期（出穂期の7～10日後頃）である。出穂期および防除適期は麦種や播種期によって異なるため、圃場ごとに出穂状況を確認して適期に防除する。なお、使用薬剤については表２を参照して行う。

② 薬剤散布をまだ行っていない圃場では直ちに薬剤散布を行う。今後、降雨が続く場合や、3月の低温により幼穂が凍害を受け不稔粒の発生が懸念される場合は、1 回目の薬剤散布の7～10日後に2回目の散布を行う。2回以上散布する際は、薬剤耐性菌の出現を防ぐため、FRAC コードの異なる薬剤を用いる。なお、薬剤を選定する際は、使用回数や収穫前日数に十分注意する。

表 2 コムギ赤かび病に登録のある主な薬剤　　（令和 6 年 5 月 15 日現在）

薬剤名	希釈倍数	使用時期	本剤の使用回数	使用方法「無人航空機による散布」の適用[1]	FRAC コード[3]
ストロビーフロアブル	2,000～3,000倍	収穫14日前まで	3回以内	無	11
トップジンM水和剤	1,000～1,500倍	収穫14日前まで	3回以内（但し、出穂期以降は2回以内）	無[2]	1
シルバキュアフロアブル	2,000倍	収穫7日前まで	2回以内	有	3
ワークアップフロアブル	2,000～3,000倍	収穫7日前まで	3回以内	有	
チルト乳剤25	1,000～2,000倍	収穫3日前まで	3回以内	有	

1) 使用方法「無人航空機による散布」においては、希釈倍数等が表中の内容と異なるので十分注意する。
2) トップジン M 水和剤と有効成分が同じであるトップジン M ゾルは、使用方法「無人航空機による散布」の適用がある。
3) 殺菌剤耐性菌対策委員会（FRAC）により、殺菌剤の有効成分の作用機構を分類し、コード化したもの。

■ 農薬使用の際は、必ずラベル及び登録変更に関するチラシ等の記載内容を確認し、飛散に注意して使用して下さい。
■ 営農 NEWS はＪＡ全農いばらきホームページでもご覧になれます。

農機営農支援部　営農支援課　　電話：029-291-1012　FAX：029-291-1040